

医心伝心 トチギ医ズム

~Tochigi Doctor's Voice~

とちぎで学び、働きたくなる出会いがここにある。

湯西川温泉かまくら祭

Doctor's Interview #02

若手指導者対談『指導者の役割とは』

病院紹介：新小山市民病院



とちぎ

地域医療支援センター

特集 | 若手指導者対談『指導者の役割とは』

2人の若手指導者が語り合った、
研修に臨むポイントや指導者としての苦勞とやりがい、
そして栃木県で働く魅力について



佐野厚生総合病院 | 消化器内科

きたがわ きよひろ

北川 清宏 先生

出身地 東京都

出身大学 慶応義塾大学医学部(2016年卒)



国際医療福祉大学病院 | 脳神経内科

すずき ともひろ

鈴木 智大 先生

出身地 栃木県宇都宮市

出身大学 秋田大学医学部医学科(2015年卒)

共に成長し、若い力で
栃木の医療を盛り上げよう！

指導する立場になって感じた
教えることの難しさ

鈴木先生：僕は現在卒後8年目で、初期研修時代から国際医療福祉大学病院に勤務しており、現在は脳神経内科に所属しています。

北川先生：僕は現在卒後7年目で、佐野厚生総合病院の消化器内科に勤務しています。初期研修も佐野厚生総合病院で行い、3、4年目は千葉県の病院で研鑽を積み、5年目からは再び佐野厚生総合病院に戻ってきました。

鈴木先生：僕も北川先生も研修医や専攻医への教育に関わる機会も多いと思いますが、いかがですか？

北川先生：うちの消化器内科には4年目の先生がいるのですが、年齢が近いこともあり困ったときには真っ先に相談を受けることが多いですね。質問や相談に答えることはもちろん、空いている時間にカルテなどを見て、必要があれば軌道修正をしたりしています。指導や教育する立場になって感じたことは、自分ができるようになるよりも人に教えることのほうがよほど難しいということです。

鈴木先生：それは僕もすごく感じています。研修医や専攻医の先生方は僕たちと年齢が近いこともあり、相談や質問される機会は指導医の先生よりも多いですね。

北川先生：そうですね。ですから、研修

医や専攻医の先生方が常に不安なく医療に臨むことができるよう、いつでも気軽に質問や相談がしやすい、フレンドリーな関係づくりを意識しています。

鈴木先生：もの凄く大事なことですよね。いろんなことを聞けるのは初期研修医時代の特権でもあって、僕も研修医のときは今思うと恥ずかしいようなトンチンカンな質問を上の方にしていただけと思うんです（笑）。それでも上の先生方は丁寧優しく教えてくださり、とても嬉しかったですね。いまも上司に相談しやすいですし、難しい症例について一緒に考えたりしています。そうした環境づくりは指導をする上ですごく重要だと思います。



北川先生：うちの消化器内科の一番上の先生はMRCP（胆膵内視鏡）にして、ESD（粘膜下層剥離術）にしてる手がとても上手い

ですし、人間的にも尊敬できる素晴らしい先生で、僕も困ったときはよく質問しています。自分も、そうした何でも気兼ねなく質問や相談をされるような、人間的にも魅力ある医師になりたいと常に思っています。

鈴木先生：僕が指導をする上で難しいと感じているのは、初期研修医への指導です。うちの病院ではトータル6か月間の内科研修が必須で、研修医のほぼ全員が脳神経内科をローテーションしますが、脳神経内科に興味がなかったり、苦手意識をもっている先生もいるため、どこまで教えたらいいのか探り探り指導しています。ただし、Common diseaseである脳梗塞などは他科に進んでも触れる場面があるため、基礎的な臨床スキルはしっかり覚えてもらえるように指導しています。

北川先生：それぞれの研修医の先生で志望科や興味のある領域が違いますし、各々のモチベーションも異なるので難しいですよ。

鈴木先生：指導する立場になって初めてみてきたことなので、自分も研修医のときは上の先生方から同じようにみられていたのかなと、今さらながら反省しています。初期研修の2年間で将来の志望科が変わることも多々あるので、研修医のみなさんには診療科の興味あるではなく、フラットな気持ちで各科の研修に臨んでほしいですね。

北川先生：いろんな科を経験できるのは初期研修医時代にしかできない貴重なことですからね。初期研修で、たとえ興味のない診療科であっても前向きに経験しておくこ



とは、医師としての土台を築くために大切なことだと思います。

鈴木先生：実際、他科志望の研修医の先生が脳神経内科をローテーションした際、1、2か月の限られた期間のなかでたくさん知識を吸収したいと、熱心に研修に取り組んでいた先生もいます。こちらとしても指導の甲斐がありますし、いろんな科をしつかり学ぶことは将来どの診療科に進むにしても必ず役立つはずです。

共に成長することで 栃木県の医療の活性化へ

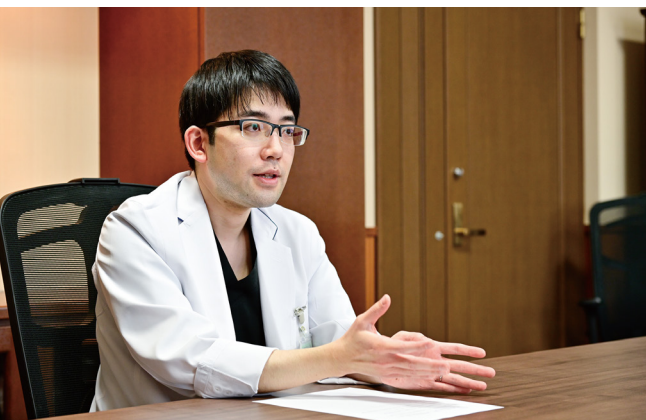
北川先生：指導者の立場としては、質問に対して常に応えられるようにしておくことも重要で、そのためには自分自身のスキルアップも必要です。教える立場になってから、より多く勉強するようになりました。

鈴木先生：勉強しあって共に成長していくという感じですよ。質問されて気付かされることも多々ありますし、それって本当はどうなんだろうと調べ直したら、過去の

常識が現在では違うということがわかったり。特に専攻医の先生からは専門性の高い鋭い質問が多いため、気付かされることや学ぶこともすごく多いと感じています。

北川先生：それと、学ぶ意欲、意識の高い若い先生方がたくさん来てくれることで指導者として教え甲斐も生まれ、病院全体が活性化しますよね。勉強したい若い先生に多く来ていただくことが、病院、ひいては栃木県の医療が発展するために一番大事なことだと思います。

鈴木先生：僕もそう実感しています。国際医療福祉大学に医学部ができたことで、医学生のみならずうちの病院に実習に来てくれるようになりました。若い人たちが来てくれることで病院も地域も活性化していきます。栃木県には大きな病院が少ないこともあり、うちの病院には福島県や茨城県などの県境の地域からも多くの患者さんが訪れます。この病院を将来にわたって維持し



ていくことは栃木県の医療を守る上でもすごく大事なことで、それには若い医師の力が必要だと感じています。

得られるスキルは幅広く

連携も密で働きやすい環境

北川先生：多くの若い先生方に栃木県で働くことに興味を持っていただくには、「働きやすさ」をアピールすることも重要だと思います。

鈴木先生：栃木県の土地柄なのか、うちの病院に研修に来てすごく感じたのはスタッフのみなさんがとても親切であたたかく働きやすいということ。医師になって最初の1年目は何もできないですよね。そうした不安のあるなか採血や点滴の仕方などを看護師さんから丁寧に教わったり、とても良くしていただいたことで医師として着実にできることが増えていきました。こうした環境のお陰で今の自分があると感じています。

北川先生：もちろん、研修医にとってたく



さん経験できる環境も大切ですが、だからといってフォロワー体制が万全ではなく、人間関係や雰囲気も悪く、心身が擦り減ってしまうような研修では全く意味がありませんよね。初期研修の大切な2年間を無理なく健康に働けることはとても重要なことだと思います。

鈴木先生：そうですね。スキルアップに關していうと、うちの病院もそうですが、栃木県は医師数が少ないため、一人ひとりが経験できる症例数が多いことも特徴ですし、学会発表も若い先生たちにたくさん関わってもらえるように、初期研修1年目から経験できるようにしています。

北川先生：うちの病院でも学会や研究発表を積極的にしています。僕も初期研修医時代からたくさん発表してきましたし、一昨年、昨年とJDMV（日本消化器関連学会機構）主催の学会においてポスターセッションによる発表をしました。学会発表の予演会（リハール）などバックアップもしっかりしているのです、多くの若い先生たちが積極的に学会発表を経験しています。

鈴木先生：臨床力はもちろん、アカデミックな力も獲得できますよね。

北川先生：それと診療科間や多職種間の密接な連携もうちの病院の特徴ですが、これは栃木県の医療の特徴でもあると思っています。先ほど鈴木先生がお話されていたように、栃木県は医師もそうですけども多職種の方々も親切で優しい人が多く、連携も密で仕事のしやすさも栃木県の大きな魅力。

自分のやりたい医療に向かってのびのびと研鑽を積むことができますよね。

鈴木先生：うちの病院は急性期病院としては珍しくリハビリテーションスタッフが非常に多いことが特徴ですが、医師や看護師さんだけの視点では不足する部分を、リハ



ビリテーションスタッフの方が気付いてフォローしてくださったり、ソーシャルワーカーさんに転院について相談したり、手配をしていただいたりと、多職種の方々に非常に助けられています。

住環境や子育て環境も魅力

栃木県は研鑽に最適な場所

鈴木先生：栃木県は住環境としても子育て環境としてもいいですね。

北川先生：うちの病院の位置する佐野市にはアウトレットモールがありますし、東京までのアクセスも良く、生活の利便性もいいです。程よい田舎感があって、とても住みやすいですし子育て環境としても抜群です。

鈴木先生：コロナ禍によって多くの学会や勉強会がリモートになっていますが、うちの病院からは平日の勤務終わりに、夕方から東京の勉強会などに新幹線一本で行くことができます。地方だから最新情報に取り残されるということもインターネットの発展した現代の情報化社会では全くありません。研修するにも生活するにもすごくいい環境なので、若い先生方にはぜひ栃木県で研鑽を積んでほしいですね。

北川先生：僕が研修医や専攻医の先生方によく言っているのは、「患者さんの不利益になることは絶対にあってはならない」とい





鈴木先生：僕が指導する際によく言っているのは「患者をよく診る」ということ。採血や画像検査などの客観的なデータを重視するあまり、患者さんの診察が疎かになってしまつては正しい診断はできませんし、正しい治療に繋がりません。症状の原因を探るには医療面接や身体診察がすごく重要です。研修医のみなさんには、患者さんの話をよく聞き、丁寧な診察を心がけて研修に臨んでほしいと思います。

うことです。そのためには、自分にはできないことをしっかりと見極められることも重要。これは幅広い経験をしないとわからないことです。栃木県は医師数が少ないこともあつて診療科間、多職種間の連携が密で、一人ひとりが経験できる症例も豊富。栃木県でなら早い時期から医師としての自覚と責任を実感しながら、患者さんの最善の利益に貢献できる幅広い臨床力を身につけることができるはず。

北川先生：栃木県はそうした医師へと成長できる、最高の研修環境にあると自信をもつて言えます。

鈴木先生：本当にそう思います。共に成長し、若い力で栃木県の医療を盛り上げていけたら嬉しいですね。



各先生 勤務先病院紹介

学校法人 国際医療福祉大学
国際医療福祉大学病院

〒329-2763
栃木県那須塩原市井口537番地3
☎ 0287-37-2221



佐野厚生農業協同組合連合会
佐野厚生総合病院

〒327-8511
栃木県佐野市堀米町1728番地
☎ 0283-22-5222





地方独立行政法人

新小山市民病院

〒323-0827 栃木県小山市神鳥谷2251番地1

☎ 0285-36-0200

🏠 病床数：300床 🏥 診療科：26科



幅広い臨床力とマネジメント力を獲得し これからの時代に必要とされる医師に

**2022年に
基幹型臨床研修病院として
初期臨床研修を開始**

当院は、2013年に独立行政法人化によって小山市民病院から「新小山市民病院」へと名称を変更し、2016年には新病院が移転開院しました。2021年には基幹型臨床研修病院の指定を受け、2022年度から初期臨床研修を



理事長・病院長

しまだ かずゆき

島田 和幸 先生

| 出身地 | 香川県

| 出身大学 | 東京大学(1973年卒)

開始し、現在2名の第一期生が研鑽を積んでいます。

独立行政法人化して以降、「断らない救急」を実践しており、救急車の年間受け入れ台数は以前の2000台から4000台を越えるまでに増加。重症患者を受け入れるICU(高度治療室)やSCU(脳卒中治療室)といった設備も完備するなど高度急性期医療にも対応しています。



当院は地域に密着した中規模病院であり、小山市以外にも多数

**”進化・成長し続けている
伸び盛り”な病院です**

大学病院や近隣医療機関との密で良好な連携体制の構築にも力を注いでおり、紹介患者数も増えたことで病床稼働率は年間平均97%と高く、地域医療の確保に重要な役割を担っています。

経営面においても9年連続して黒字を計上しており、これらの実績が評価され、栃木県内の病院で初めて「自治体立優良病院会長表彰」(2022年度)を受賞しました。

また、機能面だけではなく、ホスピタリティにおいても多くの患者さんから高い評価を得ていることも特徴で、満足度の高い医療サービスを提供できる病院であると自負しています。



の患者さんを受け入れています。患者さんとの距離が非常に近く、Common disease から専門的治療を要する疾患まで、多彩な症例を实践的に経験できるため、幅広い臨床スキルを得ることができるよう。また、地域包括ケアや多職種連携にも力を入れており、地域医療機関との交流も非常に盛んです。多職種によるチーム医療の実践や、医師会、多職種との勉強会やカンファレンスを定期的に開催するなど、幅広い知識とチーム医療の実践に必要な素養も獲得できます。

さらに当院は独立行政法人化してまだ10年と新しく、また、基幹型臨床研修病院として初期研修をスタートしたばかりであり、現在も進化・成長し続けている「伸び盛り」な病院です。研修医の先生方にも、より良い研修体制やチームワークの構築、そして働き方改革に向けた組織作りにも関わって



研修医1年目

やじま なおと

矢島 直人 先生

出身地 | 東京都

出身大学 | 山梨大学医学部医学科 (2021年卒)

充実の症例数と自由度の高さ、
そして人が優しい最高の研修環境です

いただくなど、マネジメント力を
習得できる環境も特徴です。
地の利にも恵まれており、最寄
りの小山駅は新幹線も利用でき、
首都圏まで約40分とアクセスの利
便性も魅力です。
こうした医療環境のなか、研修
医の先生方には自ら積極的に行
ななことを吸収していただき、幅
広い臨床スキルとマネジメント力
を有した、これからの時代に必要
とされ続ける医師へと成長して
ください。



不安なく研修に臨める
人のあたたかさが魅力

出身が東京なのですが、初期研
修病院を選ぶ条件として、首都圏
ではなく東京近郊で地域医療を学
ぶことができる病院を探しており、
関東の複数の研修病院が集まる合
同説明会に参加して新小山市民病
院のことを知りました。当院は地
域医療を学べる環境だけではなく、
救急医療が充実しており、多くの
診療科が揃っているため幅広い症
例を経験できること。さらに病院
見学の際には、みなさんの対応が
とてもあたたかく、医師のスター
ト地点としてすぐ理想的な病院
だと思い研修先を選びました。
当院は2022年に「基幹型臨

自由度が非常に高く
オフも充実した研修環境

初期研修医第一期生の私たちか
ら研修・教育環境を創り上げてい
くということもあって研修の自由
度が非常に高く、さらに当院は地
域医療の中核を担っている病院で
あるため、多彩な症例を豊富に経
験できることが特徴です。
「こういう手技を経験してみたい
！」、「こういう症例をたくさん
勉強したい！」と、上の先生方に
話をすれば柔軟に対応してくださ
います。希望が通りやすく、学
意欲に熱心に応えてくださるのが
嬉しいですね。自分が目指す医師
像や将来進みたい診療科に沿った
研修ができますし、進路が決まっ
ていない方も多彩な症例を豊富に

床研修病院」として初めて初期臨
床研修を開始し、私を含め2名が
初期研修医の第一期生となります。
実際に入職してからも、見学時に
感じた印象と変わることはない、
とても雰囲気の良い病院です。研
修医の先輩がいないという環境に
多少の不安も感じましたが、4、
5年目の年齢の近い先輩医師の方
々によく世話をしていたいた
り、上の先生方や多職種の方々
も、「大丈夫？」「分からないこと
があったら何でも言ってね」と常
に気にかけてくださるなど、あた
たく優しい環境のお陰で不安な
く研修に臨むことができました。

経験できることで、各診療科のい
ろんな魅力を知ることができ、自
分に本当に合った失敗しない進路
選択ができる病院だと感じていま
す。

土・日はしっかり休むことがで
き、プライベートも充実した研修
生活が送れることも大きな魅力で
す。忙しくて自分の時間がないと
いうことは決してありません。医
師になったばかりの、とにかく不
安の大きい研修医が初めて働く病
院として、仕事も勉強もしやすい
最高の環境だと感じています。

ぜひ病院見学に来ていただき、
当院での研修のたくさん魅力と
あたたかい雰囲気をぜひ感じてほ
しいです。見学時には何でも気軽
に質問してください。お待ちしております
です！

